チャート選定の地図

伝えたいことから、図の形を選ぶ（学術ポスター向け）

ポサコ
連載「グラフ・図表の見せ方」第1回
www.posaco.jp/design/

図を作る前に、その図のキャプションに書く結論を一文で書きます。左の列から結論の文に合う行を選び、右へ読んでください。図の形は「データの種類」ではなく「伝えたいこと」で決まります。

伝えたいこと	第一候補	代わりの形	ポスターでの注意
量を比べる 群・条件・項目	棒グラフ	ドットプロット（値を点で示す図。棒の先端の差が小さいとき）	棒グラフの目盛りは0から始める。値の大きい順に並べる。項目名が長ければ横棒グラフにする
前後・2時点の変化	スロープグラフ	対応のある散布図（前後の値を縦横にとり、x＝yの対角線を1本引く）	2時点に絞ると、増えたか減ったかがいちばんはっきり分かる
時間の推移	折れ線グラフ	面グラフ（量の印象も残したいとき）	線は4〜5本まで。多ければ図を分け、縦軸の範囲をそろえる。欠測の区間は線を切る
割合・内訳	横棒グラフ（割合の大きい順）	円グラフ（2〜3項目まで）、積み上げ棒グラフ（2要素まで）	円グラフは12時の位置から始め、値は扇の中に書く。4項目以上は横棒グラフにする
ばらつき・分布	一人ひとりの点＋平均	ヒストグラム（分布を棒で示す図）、箱ひげ図	平均と誤差線だけで分布を示さない
2つの量の関係	散布図	—	横軸に原因、縦軸に結果。点が重なるなら、点を半透明にする
不確かさ	誤差線・信頼帯	—	標準偏差（SD）・標準誤差（SE）・95%信頼区間（95%CI）のどれを表すかを必ず書く。誤差線が重なるかどうかで有意差を判断しない
正確な数値そのもの	表	—	縦罫線なし・数値は右そろえ・単位は見出しに。差を見せたいなら図に変える

ポスターに置くときの3つの決まり

- **主役の図は1枚。**結論を語る図をいちばん大きく置き、補助の図は小さく。本筋に関わらない図は外し、QRコードで論文に案内する
- **キャプションは図の直下に、結論の文から。**条件（人数・誤差線の意味・検定）はかっこの中に書く
- **軸の文字は、ポスターに置いた大きさで24pt以上**（A0判）。凡例を使わず、名前は棒や線のすぐ脇に書く

ポスターでは避ける形

- 3Dのグラフ（値が読み取れない）
- 左右に別の軸を持つ2軸グラフ（図を2枚に分ける）
- 4項目以上の円グラフ、3要素以上の積み上げ棒グラフ
- 目盛りが途中から始まる棒グラフ、面積で比べる図（バブルチャート）
- 棒ごとに違う色（強調は1色、残りはグレー）

※ 本表の目安（円は2〜3項目・折れ線は4〜5本・積み上げは2要素・軸の文字24pt以上）は、読み手が図から値を取り出せる範囲として置いたものです。

© ポサコ（ユサコ株式会社）